佛教學研究

桂　紹隆教授
定年記念

第 69 号

龍谷佛教學會

平成 25 年 3 月

桂　紹隆教授定年記念

佛教學研究

第六十九号

龍谷佛教學會

巻頭言

桂紹隆先生は平成二十四年三月を以て龍谷大学教授の職を定年で退職されました。ここに有縁の者が集い、ささやかな論文集を編んで『佛教學研究』記念号として刊行し、先生の学恩に感謝の意を表したいと存じます。

桂先生は昭和四十一年三月京都大学文学部哲学科仏教学専攻卒業、四十三年三月同大学院文学研究科修士課程終了後、四月に同博士課程に進学され、在学中の昭和四十三年九月トロント大学大学院博士課程に留学、四十七年六月まで在籍されました。四十九年十二月にトロント大学で Ph. D.、六十二年三月に京都大学で文学博士の学位を取得しておられます。

カナダ滞在中の四十七年七月から四十九年六月までトロント大学サンスクリット・インド学科専任講師を勤められ、帰国後の五十年四月から五十一年八月まで京都産業大学教養部専任講師を経て、同年九月に広島大学文学部専任講師、五十三年同助教授、平成元年同教授に昇任、十六年三月まで在職され、退職時に名誉教授となられました。広島大学ご退職とともに平成十六年四月龍谷大学文学部教授にご着任、昨平成二十四年三月に定年を迎えられましたが、同年四月より龍谷大学文学部特任教授として大学院科目を中心に引き続きご指導頂いております。この間、平成二十二年度から二年間、龍谷大学宗教部長の要職を務められ、建学の精神たる浄土眞宗の精神の涵養と普及に尽力されました。また、二十二年四月、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として龍谷大学アジア仏教文化研究センター（略称 BARC）が発足するにあたり同所長に就任され、現在に至っておられます。

先生の本学教授としてのご在職期間八年は長からぬものではありましたが、ご着任以来文字通り寸暇を惜しんで教育と研究に精励され、更にはご多忙を縫って大学運営にも一臂の力をお貸し下さいました。教育面では学部大学院を通じ非常な熱意をもって指導にあたられたことは言うまでもありませんが、特に課程博士の育成に意を用いられ、留学生を含めて八名が先生の薫陶のもとに学位を取得しました。研究面では、ご専門の佛教知識論を中心とした幅広いご業績と国際的なご活躍についてここに贅言を要しません。その一端は、別に記されるご略歴及び著述目録に示されるとおりです。平成二十二年に中村元東方学術賞を受賞されたことは斯学における先生の声価を示す一例ですが、特に本学ご在職中の出来事であっただけに私共学科教員一同の大きな慶びであり誇りでありました。また、前述のアジア仏教文化研究センターは先生のリーダーシップと国際的なネットワークを俟って初めて実現した事業であり、平成二十三年に本学と中国藏学研究中心との間で学術交流協定が締結されたのも、偏に先生のご尽力の賜物であります。

私事にわたりますが、広島大学ご在職中から私淑しまた直接間接のご教示に預かっていた先生を、二十余年の後に本学にお迎えし、同じ仏教学教室の一員として親しくご厚誼を賜ることになろうとは、予想だにしないことでした。数々の研究プロジェクトに携わって僅かながらもお手伝い出来たことと併せて、御縁の不思議と身の幸いに思いを致す次第です。

桂先生の本学並びに佛教学会へのご貢献に対し改めて深甚なる敬意と謝意を表するとともに、今後の益々のご健勝とご活躍を念願して、巻頭の辞に代えさせて頂きます。

平成二十五年三月

龍谷大学佛教学会長
若原雄昭

桂　　紹 隆 教授

目次

巻頭言……若原雄昭……一
桂紹隆教授略歴……三
『入阿毘達磨論』に説かれる四有為相……武田宏道……一
チベットにおける阿弥陀経の受容
——訳経の視点から——……能仁正顕……二七
平成二十三年度龍谷仏教学会学術研究発表会要旨……五一
平成二十四年度　文学部卒業論文題目一覧……五五
平成二十四年度　大学院修士論文題目一覧……五九
平成二十四年度　龍谷仏教学会彙報……六〇
執筆者紹介……六二
平成二十三年度龍谷仏教学会学術研究発表会要旨……(309)
ベルリンの仏教事情……三谷真澄……(285)
『中論頌』第25章における無記説……金沢豊……(267)

止行者と観行者の対立……K. PHRAPONGSAK……(245)
——現代タイ仏教界の瞑想法をめぐって——
仏教とは何か……松島央龍……(209)
——説一切有部の仏教観——
ディグナーガの感官知説とアビダルマの伝統……吉田哲……(169)
縁起解釈と諸学派の立場……楠本信道……(115)
——『倶舎論』と『縁起経釈』を中心に——
『業施設』和訳研究（3）……青原令知……(75)
——第3章～第5章——
縁起法頌再考……若原雄昭……(29)
——註釈文献の紹介を中心に——
世親の刹那滅……芳村博実……(19)
miśra-upamiśra 考……早島理……(1)

平成二十四年度　文学部卒業論文題目一覧

釈尊の研究　小菅　龍慈
宮沢賢治の仏教観　髙山　真一
仏教は知的に障がいのある者を救えるか　今中　博之
比叡山における行　江夏　大地
忍性の研究　柴田　泰宏
仏教と修験道　清水　保典
十住毘婆沙論の研究　竹本　強
日蓮における善悪論　土田　歩美
――『立正安国論』を中心に――
弘法大師空海の研究　永管　英地
道宣の戒律観　西山　明範
曼荼羅の研究　濱田　卓也
道元禅師の研究　平井　浩太
聖覚の研究　宮部　亮
――『唯信鈔』を中心に――
空海における十住心思想の研究　森崎　正裕
仏教と音楽　原田絵里香
熊野信仰の研究　赤坂　真吾
神仏習合の研究　赤松　千華
『無門関』の研究　淺田　明道

『選択本願念仏集』の念仏の意義　淺原　賢凌
――『往生要集』と比較して――
インド宗教に見受けられる来世観　安達　大祐
アジャンター石窟　池島　孝輔
ガンディーにおける非暴力の思想と実践　伊阪　孝平
インドにおける仏教美術の概念　石田　宗平
――ガンダーラ美術とマトゥラー美術――
タゴールの思想と行動　井上　洋
ヴァイシェーシカ学派の人間観　上田　有紗
――アートマン・マナス・身体――
不飲酒戒の研究　上田　翔太
『末法燈明記』の研究　上本　愛
鞍馬寺の研究　大塚彦太朗
六道輪廻に於ける転生について　大友　麻美
地獄思想の研究　岡川　史弥
――『往生要集』を中心に――
法然の生死観について　小川　吾大
日本の民話・説話における仏教的要素　奥田　智勝
説一切有部における無表業の研究　奥野　自然
仏教とヒンドゥー教の神様　尾崎　宏樹

『源氏物語』における仏教思想　小畑　美帆
伝教大師最澄の戒律観　柏山　裕祐
唯識教学における阿頼耶識縁起について　片岡　秀仁
栄西禅の研究　片芝　亮
——特に『興禅護国論』を中心として——
大谷探検隊の仏教研究　楠原　光純
金光教と日本仏教の比較研究　工藤　直人
——特に教義と布教を中心として——
初期仏教における「こころ」の考察　倉橋　初明
空海の言語論について　黒瀬　英世
天台教義と空思想　見城怜太郎
仏教と西洋哲学　小山　恭佳
日本における末法意識の変遷　斉藤　顕也
——源信・法然・親鸞の浄土教を中心として——
古代仏教寺院における伽藍配置の研究　齊藤　英樹
日本文学と仏教　逆瀬川龍太郎
——小林秀雄を中心にして——
沢庵の禅思想の研究　佐々木　啓
供花と華道　佐藤香菜子
——仏教と芸術の接点——
サーンチー・ストゥーパの研究　塩見　陽平
空海の密教思想の研究　篠原　英信
慈覚大師円仁の研究　下條　尚樹
仏教は自死をどう位置付けるのか　新治　孝子
東寺立体曼荼羅の研究　菅野　玲子
——密教建築の視点から——
法然上人の研究　杉本　暁
叡尊の研究　鈴木　珠子
法然浄土教の研究　鈴木　弘如
原始仏教における「悪」　曽根　由梨
——『ダンマ・パダ』を手がかりにして——
弁長における『往生要集』理解　髙木　沙紀
日本仏教における「悪の自覚」　高田　悠
仏教における「香」の役割　髙谷峻大朗
証空における善導教学の影響　髙野　純也
『中論』の研究　武田　健吾
——19章を中心に——
中国・日本天台における衆生観の変遷　武田　弘樹
弘法大師空海の研究　唯有　敬心
法然の浄土教思想の研究　辰見　宏幸
アジャンター石窟における壁画の研究　田中　真央
地蔵菩薩信仰の変遷　天宅　絢子
アビダルマにおける二十二根の研究　徳山　響
平安期における修法　冨田　真吾
法然浄土教の研究　中大路佳寿
三一権実論争における二乗作仏について　中島　教芳
源空・弁長における観経観　中村　公彦
仏教と社会　西村　拓哉

——カルト教団の反社会性の考察を通して——　埜本　佑美
「菩薩の導き」か「信仰の力」か
——『今昔物語集』巻十七第三十三話における僧の求道——　橋元　信勝
十二神将の研究　八馬　智美
アショーカ王と仏教　服部　温華
病と向き合う仏教
——『病草紙』を手がかりにして——　林寺　香
提婆達多の研究　針原　智明
源信の弥陀信仰の研究
——特に『往生要集』『阿弥陀経略記』を中心として——　東根　翔
「中陰」の研究
——『成実論』を中心に——　廣田　尚子
弁才天と宇賀神　深田　賢一
『唯識三十頌』における末那識についての一考察　藤本　裕真
千体千手観音立像の研究　藤原くらら
法然浄土教の研究　干場三奈美
仏教生命観　堀江　早希
カースト解放運動の系譜　前中　潤
アンベードカルの生涯と思想　牧野　礼佳
空海の曼荼羅観　松井　祐貴
初期ジャイナ教の研究
——仏教との対比を中心に——　三木はるひ
『平家物語』に見る仏教観　光井　尚樹
シャンカラの不二一元論　宮﨑　菜摘
『往生要集』における菩提心について　村山　達郎
三経義疏の撰述問題について　望月　慎平
踊り念仏の研究　森田　遼
戦国武将の神仏信仰　屋敷　創希
鑑真の研究
——日本仏教における戒律の変化を中心にして——　山内　大道
中陰の一考察　山下　真
「九相図」の研究　山田　隆道
自分の子供を布施すべきか
——『ヴェッサンタラ・ジャータカ』にみる菩薩観と国王観——　山名　苑子
地蔵菩薩の研究　横　和花菜
ヨーガの研究
——古典ヨーガから現代日本まで——　吉田　匡人
アメリカ仏教　渡邊　麻美
古代インド庶民の生活像
——法典類を中心に——　石垣　章子
日本仏教における捨身の思想　遠藤　竜平
環境問題と仏教　釜田　昭男
ボロブドゥール遺跡における仏伝レリーフの一考察　澤井　和子
法然浄土教の研究
——念仏観を中心に——　末永　幸江
大乗仏教の成立に関する一考察
——菩薩観の多様性に注目して——

行基の社会事業活動の研究　中村　長二
叡尊の戒律思想の研究
——衆生救済の思想的背景を中心に——　星野　徳子
仏教教団の成立過程の検討
——デーヴァダッタ悪人説を通して——　渡邊　徹
ビハーラ活動と仏教の可能性　加島　英嗣

法然浄土教の研究　橋本　綾
『極楽浄土九品往生義』について　藤本麻利子
釈迦族としてのブッダの研究　間城　悠
空海の密教思想の研究　松本　耕紀
行基菩薩の研究　吉廣　咲姫
臨終行儀について　米田　明生

最優秀卒業論文題目

平成二十三年度
仏教は苦行を否定したか
——マハーカッサパの頭陀とデーヴァダッタの五事——　上野　敦子

平成二十四年度
東寺立体曼荼羅の研究
——密教建築の視点から——　菅野　玲子
道宣の戒律観　西山　範明

供花と華道
——仏教と芸術の接点——　佐藤香菜子
仏教教団の成立過程の検討
——デーヴァダッタ悪人説を通して——　渡邊　徹

平成二十四年度　大学院修士論文題目一覧

ガンダーラのいわゆるアトラス像について　西　千賀子

「観心略要集」の研究　――金棺出現の場面を中心に――　野村　光佑

曇鸞浄土教の研究　明秀光雲の浄土教学の研究　――『愚要鈔』を中心として――　藤原　智之

中国の涅槃変相図に関する研究　「虎を伴う行脚僧図」の研究　岸田　悠里

酒見　暢

藤川　夕貴

平成二十四年度　龍谷仏教学会彙報

平成二十四年四月十三日（金）

新入生入会説明会（深草学舎　二一号館一〇一教室）

五月三十一日（木）

龍谷仏教学会定期総会（大宮学舎　東黌一〇三教室）

十一月二十日（火）

龍谷仏教学会仏教学大会（大宮学舎　本館講堂）

講師　上山大峻（龍谷大学名誉教授・元龍谷大学学長）

講題　「仏教と現代」

平成二十五年一月十六日（水）

龍谷仏教学会学術研究発表会（大宮学舎　西黌二階大会議室）

発表者　吉田慈順（龍谷大学大学院博士課程）

題　目　「『勝鬘経疏義私鈔』と天台教義との一致」

発表者　井上綾瀬（龍谷大学大学院研究生）

題　目　「薬犍度記事の古層と新層

——飢饉の記事を中心に——」

発表者　壬生泰紀（龍谷大学大学院博士課程）

題　目　「〈阿弥陀経〉の成立時期

——阿弥陀仏の寿命を手掛かりとして——」

発表者　西山　亮（龍谷大学大学院研究生）

題　目　「アビダルマの二諦説」

発表者　早島　慧（龍谷大学大学院博士課程）

題　目　「瑜伽行唯識学派における二諦説解釈の変遷」

発表者　間中　充（龍谷大学大学院博士課程）

題　目　「『大乗荘厳経論』第XI章における幻の譬喩と三性説との関係性について」

発表者　上野隆平（龍谷大学大学院研究生）

題　目　「『菩薩地』の「百四十不共仏法」を敷衍して『大乗荘厳経論』が「仏の功徳」を組織する際に（18）〈十八不共功徳〉と（20）〈六波羅蜜の完成〉を新たに追加したのはなぜか」

発表者　那須円照（龍谷大学仏教文化研究所客員研究員）

題　目　「世親の唯心論」

執筆者紹介（執筆順）

武田宏道	（たけだ　ひろみち）	元龍谷大学教授
能仁正顕	（のうにん　まさあき）	龍谷大学教授
早島　理	（はやしま　おさむ）	龍谷大学教授
芳村博実	（よしむら　はくじつ）	龍谷大学教授
若原雄昭	（わかはら　ゆうしょう）	龍谷大学教授
青原令知	（あおはら　のりさと）	龍谷大学教授
楠本信道	（くすもと　のぶみち）	筑紫女学園大学非常勤講師
吉田　哲	（よしだ　あきら）	龍谷大学講師
松島央龍	（まつしま　ひさかみ）	龍谷大学大学院博士過程修了
Kongkarattanaruk Phrapongsak	（コンカーラッタナラック　プラポンサック）	龍谷大学非常勤講師
金沢　豊	（かなざわ　ゆたか）	浄土真宗本願寺派総合研究所研究員
三谷真澄	（みたに　まずみ）	龍谷大学教授

平成24年度　龍谷仏教学会役員

会長	若原雄昭			
理事	淺田正博	入澤崇	桂紹隆	楠淳證
	能仁正顕	藤丸要	道元徹心	宮治昭
	芳村博実			
評議員	青原令知	淺田正博	入澤崇	岡本健資
	桂紹隆	北畠典生	楠淳證	佐々木恵精
	龍口明生	能仁正顕	野呂靖	長谷川岳史
	福原隆善	藤丸要	本多至成	神子上恵生
	三谷真澄	道元徹心	宮治昭	山田明爾
	山部能宜	芳村博実	若原雄昭	渡邊隆生（五十音順）
総務	吉田哲	吉田慈順（D3）	冨高泰資（M1）	
会計	間中充（D1）	李子捷（M1）		
庶務	横尾明親（M1）			
書記	眞岡陽明（M1）			
編集	道元徹心	小泉宗慶（M1）		
監事	藤丸要	早島慧（D3）	岡本俊樹（L3）	

編集後記

『仏教学研究』第69号をお届け致します。
本号は桂紹隆先生の退職記念特集号として企画され、12名の研究者の原稿を頂戴することができました。

桂紹隆先生が、インド哲学・仏教論理学の研究を中心に幅広いご業績と国際的なご活躍で知られることは今更申し上げるまでもありません。本号巻頭の略記からもその一端が伺われますが、龍谷大学文学部教授にご着任後は龍谷大学アジア仏教文化研究センターの発足と同時に所長に就任、現在に至っておられます。その間、龍谷大学宗教部長の要職を務められ、研究と教育の両面に亘って力を注がれて龍谷大学の発展に大きく寄与して下さいました。学外においても日本学術会議連携会員・国際仏教文化協会理事・仏教伝道協会理事をされ、平成22年には長年のご活躍によって中村元東方学術賞を受賞されました。先生の大きな学恩に深く感謝を申し上げますとともに、これからも龍谷仏教学会の発展と後進のためにご指導を賜りますようお願い申し上げる次第であります。

2013年4月から本学仏教学科は装いを改めて「アジアの仏教と文化」と「日本の仏教と文化」の2コース制となり、新カリキュラムのもとに新入生を迎えます。学科のホームページも新たに開設し、龍谷仏教学会に関係する企画や行事も最新情報として逐次アップしてまいります（→ http://buddhism-ryukoku.jp/）。今後とも皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。　（道元徹心 記）

平成25年3月10日発行　　仏教学研究　69号

編集者　龍谷仏教学会　〒600-8268 京都市下京区七条大宮 龍谷大学　仏教学合同研究室内

発行者　龍谷仏教学会　〒600-8268 京都市下京区七条大宮 龍谷大学　仏教学合同研究室内

Bukkyo-Gakkai, Buddhist Research Association, Ryukoku University
Department of Buddhist Studies, Ryukoku University,
Shichijo Omiya, Shimogyo-ku, Kyoto 600-8268, JAPAN

頒布所　百華苑　京都市下京区油小路六条上 電話〈075〉371—5760番 振替01080—1—25788番

印刷所　図書印刷 同朋舎　京都市下京区中堂寺鍵田町

CONTENTS

The Four Conditioned Characteristics (saṃskṛta-lakṣaṇa) in the *Prakaraṇa Abhidharmāvatāra*
····· Hiromichi Takeda····· 1

On the Reception of the *Smaller Sukhāvatīvyūha-sūtra* in Tibet: A Study Based on Its Tibetan Translation
····· Masaaki Nohnin ····· 27

On the Situation of Buddhism in Berlin
····· Mazumi Mitani ····· (285)

Avyākṛta in Chapter25 of the *Mūlamadhyamakakārikā*
····· Yutaka Kanazawa····· (267)

The Confrontational View between *Samathayānika* and *Vipassanāyānika*: Regarding Meditation Methods in Contemporary Thai Buddhism·····Kongkarattanaruk Phrapongsak
····· (245)

What is Buddhism? Sarvâstivâdin's Notion of *Buddhavacana*
····· Hisakami Matsushima····· (209)

Dignāga's Theory of Sense-perception and the Tradition of Abhidharma
····· Akira Yoshida ····· (169)

The Interpretation of Dependent Origination and the Standpoints of Some Buddhist Schools in the *Abhidharmakośabhāṣya* and the *Pratītyasamutpādavyākhyā*.
····· Nobumichi Kusumoto ····· (115)

An Annotated Japanese Translation of the *Karmaprajñapti* (3): from Chapter 3 to 5.
····· Norisato Aohara ····· (75)

The *Ye dharmā* Formula Reconsidered: An Introduction to Its Three commentaries
..... Yusho Wakahara ..... (29)

Momentariness According to Vasubandhu
..... Hakujitsu Yoshimura ..... (19)

On Miśra-upamiśra
..... Osamu Hayashima ..... (1)

龍谷仏教学会会則

第一章　総　則

第一条　本会は、龍谷仏教学会と称する。

第二条　本会は、仏教学の研鑽ならびに会員相互の親睦を図ることをもって目的とする。

第三条　本会は、事務所を京都市下京区七条大宮龍谷大学仏教学研究室内に置く。

第二章　会　員

第四条　本会は、次の会員をもって構成する。

一、名誉会員…本会に功績のあった人の中から、理事会がこれを推薦し、総会で承認する。

二、個人会員A（普通会員）…本会の主旨に賛同する研究者をもって会員とする。

三、個人会員B（学生会員）…龍谷大学文学部の仏教学専攻の学生をもって会員とする。

四、個人会員C（賛助会員）…本会の主旨に賛同して事業の援助を専らとする者および本会の発行する刊行物の入手を専らとする者をもって会員となす。

五、団体会員…仏教研究を主目的とする大学、短期大学およびそれに準ずる学校学術団体ならびに本会の主旨に賛同する団体をもって会員とする。

第三章　総　会

第五条　総会は、本会の最高議決機関である。

第六条　総会は、本会の個人会員をもって構成する。

第七条　総会は、個人会員の五分の一以上の参加をもって開催することができる。

第八条　総会は、次の場合に開催される。

一、定期総会（毎年五月）。

二、会長が必要と認めた場合。

三、会員の五分の一以上の連署による要求のあった場合。

第九条　総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

第四章　役　員

第十条　本会は、次の役員を置く。

一、会長　一名…理事の中から互選し、本会を代表して会務を統理する。

二、理事　若干名…評議員の中から互選する。理事は理事会を組織し、会務を処理する。

三、評議員　若干名…会員の中から、総会において選出する。ただし、他の役員との兼任を妨げない。

四、編集員　若干名…会長が評議員の中から委嘱し、学会誌「仏教学研究」の査読、編集を行う。

五、委員　若干名…会長が会員の中から委嘱する。

委員は、次の業務を分担する。

一、総務。二、会計。三、編集。四、庶務。五、書記。

六、監事　三名…総会において会員の中から互選し、会務を監査する。

第十一条　評議員の任期は三年、他の役員の任期は一年とし、重任を妨げない。

第五章　事　業

第十二条　本会は、次の事業を行う。

一、総会。

二、学術大会。

三、研究会、輪読会および研究発表の開催など。

四、学会誌の発行。

五、会員の親睦に関わる事業。

六、その他、必要とする事業。

第六章　会　計

第十三条　本会の経費は、会費、寄附金、その他の収入による。

個人会費は、年額四、五〇〇円とする。

団体会費は、年額一〇、〇〇〇円とする。

第十四条　本会の会計年度は、四月より翌年三月までとし、会計報告は定期総会において行う。

第七章　附　則

本会則は、総会の決議により変更することができる。

一、本会則は昭和四十五年十二月十日施行の龍谷仏教学会会則の一部を変更し、平成二年四月一日より施行する。

二、本会則は、平成二年四月一日施行の龍谷仏教学会会則の一部を変更し、平成六年四月一日より施行する。（第四章第十条・第四章第十一条・第五章第十二条・第六章第十三条の改正）

1SSN 0287-0312

THE STUDIES IN BUDDHISM

BUKKYOGAKU-KENKYU

No. 69

Presented in Honour of
prof. Shoryu KATSURA
on his retirement from
Ryukoku University

March, 2013

Buddhist Research Association

Bukkyo-Gakkai

Ryukoku University, Kyoto, Japan.